

テーマ

ふるさとを知り 郷土愛を育てよう

事業実施地区（中学校区名）	出雲市立大社中学校
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	大社コミュニティセンター 荒木コミュニティセンター 遙岨コミュニティセンター 日御碕コミュニティセンター 鵜鷺コミュニティセンター

テーマの背景

約350年前に始まり、大正時代まで貿易航路の寄港地として地域に繁栄をもたらした『北前船』。また、約300年前から、地域に吉と幸せを願い継承され、正月行事として住民に親しまれている『吉兆さん』。このような地域に伝えられている素晴らしい歴史や伝統芸能を私たちはもちろん、子どもたちを中心として見つめ直し、人々によって築かれ、継承されてきたふるさとを探訪することで、ふるさとの良さと魅力を学ぶ。

実際の取組

④ふるさとの魅力や価値に気付き、理解を深める学びの場を設定

事業名：海から見たふるさと探訪 『北前船のひみつ』

<取組の概要>

『北前船』に乗って来た先祖も見たであろう海上からの景色を、解説を加えて現地で体感した後、講演会を開催する。ふるさとの景観を歴史とともに違った角度からとらえ、新たな魅力として、子どもたちに共有してもらおう。

<成果と課題>

『北前船』の歴史・足跡を間近で体験して学び、地元に残る屋号や門名の由来、物品が保管されていた倉庫群や宿場、貿易港ならではの現在にも残る特殊な屋根瓦にも手で触れ、子どもから大人までがそれぞれの感性で研修した。

身近にありながら、知らなかった新しい事実の発見と得た知識は、地域の歴史として継承され、長く語り継がれていく実感をえた。

## ⑥ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え 守っていく活動の実施

事業名：大社町伝統行事『吉兆さん』継承へのみち

### <取組の概要>

大社地域で古くから行われている伝統行事『吉兆さん』について、今回、中学生吉兆を発足し、中学生が地域住民から教わりながら、笛・太鼓の練習を半年以上積み重ねていく。

大社中学校と地域住民が一体となって取組を進める中で、郷土の伝統文化を学ぶことによりふるさとの良さを知り、地域住民との交流を深め、ふるさとへの愛着を育む機会とする。

### <成果と課題>

当日は120人を超える参加者と応援隊の中で、堂々と第1回の披露を行った。その姿は胸を熱くするものがあり、拍手喝采のうちにやり通した生徒の言葉からも、自信とふるさとを大切にす気持ちが感じられた。

半年以上にわたる練習において、地域住民に教えられ、見守られているという人と人とのつながりの大切さも学んだ事業となった。

このような地域の良さに気づき、受け継ごうとする心情を今後も継続して育てていきたい。

## まとめ

### テーマに迫るためのポイント

- ① 学校とコミュニティセンターが日程調整から、伝えたいことの話し合いまでいろいろと打ち合わせをした。『北前船』の歴史では、地元の子にも、外洋から港や入り江を見て、北前船の航路を体験させたいと考え、想定できる状況により数プランは設定していたが、台風により2日のうちの1日は中止とした。
- ② 伝統行事「吉兆さん」では、地域の方が多数参加・指導に当たってくださり、生徒、地域双方にとって初めての経験であったが、毎月2日の計15回の練習成果が十分に発揮された結果となった。「伝統行事」であった点が、地域の方との接点となった。

### 今後の展望

- ① 身近な歴史・史跡を体感し見つめ直すことで、長く語り継がれ、誇れるふるさととして参加者も新しい発見があった。また、興味深い、更に学びたい、もっと深く研究したいと思わせる価値を発見した。このような機会をもっと持って欲しいなどの意見が聞かれ、子どもを交えたふるさと体験の継続が重要と感じている。
- ② 初めての中学生吉兆が地域に与えた影響も多大なものがあった。このような取組を一過性のものとしてせず、継続していくことにより、近年、希薄になりがちな地域の大人と子どもとの繋がりを深め、次世代を担う人づくりを進めていきたい。